

「特別の教科 道徳」における道徳性の評価に関する開発的研究

— 中学校用道徳性自己評価シートの開発とその活用を通して —

Developmental Research on the Evaluation of Morality in  
"Moral Education as one of the Special Subjects";  
Development and Application of Morality Self-Evaluation Sheet  
for Junior High School Students.

濱保和治

Kazuharu HAMAYASU

岡田大爾

Daiji OKADA

『広島国際大学 教職教室 教育論叢』

“*Hiroshima International University Journal of Educational Research*”

ISSN:1884-9482

第 10 号 抜刷

Off Print of the 10<sup>th</sup> Edition

広島国際大学 教職教室

Issued by Hiroshima International University Teacher Education Unit

2018 年 12 月

December, 2018

## 「特別の教科 道徳」における道徳性の評価に関する開発的研究 －中学校用道徳性自己評価シートの開発とその活用を通して－

廿日市市立 野坂中学校 濱保 和治  
広島国際大学 教職教室 岡田 大爾

**要 旨**：2015（平成27）年の学習指導要領の一部改正によって、これまで学校教育の一つの領域とされてきた「道徳」は、「特別の教科 道徳」として位置づけられ、小学校では2018（平成30）年度、中学校では2019（平成31）年度から完全実施となる。「道徳の時間」が「特別の教科」（以下、「道徳科」と記す）として位置づけられることにともなって、検定教科書の導入、道徳授業の質的な改善を目指した指導方法の改善など様々な課題への対応が迫られている。中でも、今の学校現場での最大の関心事は、「道徳科の評価」に関することである。つまり、指導要録や通知表に何を、どのように記述すればよいかということである。このことについて、2016（平成28）年7月道徳教育に関わる評価等の在り方に関する専門家会議より『「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（報告）」（\*1）が示されたが、実際の学校現場では、「どうやって評価すればよいか分からない」、「心は評価できない」、「数値化できないなら評価できない」「評価にかかる時間が十分にとれない」など、評価方法や指導要録への記述にイメージが持てないという声が多い。そこで、道徳性の評価方法に関わる研修や道徳性の評価資料の収集と分析の方法などの研究等で、評価の在り方を示していく必要がある。本研究は、その道徳性の評価方法のなかでも、生徒の自己評価による道徳性チェックシートを開発し、その活用をもとにして道徳科の評価の在り方を考察していくものである。

### はじめに－問題の所在－

2015（平成27）年3月に、学校教育法施行規則及び学習指導要領の一部改正が行われ、これまで学校教育の一つの領域とされてきた「道徳」は、「特別の教科 道徳」として位置づけられ、小学校では2018（平成30）年度、中学校では2019（平成31）年度から完全実施となる。「道徳の時間」が「特別の教科」（以下、「道徳科」と記す）として位置づけられることにともなって、検定教科書の導入、道徳授業の質的な改善を目指した指導方法の改善など様々な課題への対応が迫られている。中でも、今の学校現場での最大の関心事は、「道徳科の評価」に関することである。つまり、指導要録や通知表に何を、どのように記述すればよいかということである。このことについて、2016（平成28）年7月道徳教育に関わる評価等の在り方に関する専門家会議より『「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（報告）」（\*2）が示されたが、実際の学校現場では、「どうやって評価すればよいか分からない」、「心は評価できない」、「数値化できないなら評価できない」「評価にかかる時間が十分にとれない」など、評価方法や指導要録への記述にイメージが持てないという声が多い。

本来、道徳の時間の評価については、「生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価するととも

に、指導の過程や成果を評価し、指導の改善を行い学習意欲の向上に生かすようにすること」(改正前の中学校学習指導要領総則)を踏まえ、各学校で教員が道德教育及び道德授業に関する目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組んできた。しかし、全体として道德の評価の意義が十分に浸透しているとは言いがたい実態が認められた。そのことで、今回の学習指導要領の改正に伴い、道德科の評価においては生徒の成長の様子を積極的に見取り、これらを伸ばす新しい評価が必要になった。

そこで、道德性の評価方法に関わる研修や道德性の評価資料の収集と分析の方法など研究等で、評価の在り方を示していく必要がある。本研究は、その道德性の評価方法のなかでも、生徒の自己評価による道德性チェックシートを開発し、その活用をもとにして道德科の評価の在り方を考察していくものである。

## 1. 研究方法

- (1) 中学校の実情に即した道德性の評価資料の収集と分析の方法などを研究し、道德性の評価方法について考察する。
- (2) 生徒の自己評価による道德性チェックシートを開発し、その活用をもとにして道德科の評価の在り方を考察する。

## 2. 研究内容

### 2.1 道德性の定義と評価の意義

#### (1) 道德性の定義と評価の観点

(小) 中学校学習指導要領解説道德編第2章第2節4(\*3)には、道德性について、つぎのように示されている。

道德性とは、人間としてよりよく生きようとする人格的特性である。これらを構成する諸様相は、道德的判断力、道德的心情、道德的実践意欲と態度であり、それらの様相には、特に序列や段階があるということではない。

一人一人の児童生徒が道德的価値を自覚し、人間としての(小学校:自己の)生き方について深く考え、日常生活や今後出会うであろう様々な場面及び状況において、道德的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような内面的資質を意味している。

・道德的判断力は、それぞれの場面において善悪を判断する能力である。つまり、人間として生きるために道德的価値が大切なことを理解し、様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する力である。的確な道德的な判断力をもつことによって、それぞれの場面において機に応じた道德的行為が可能になる。

・道德的心情は、道德的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情のことである。人間としてのよりよい生き方や善を志向する感情であるとも言える。それは、道德的行為への動機として強く作用するものである。

・道德的実践意欲と態度は、道德的判断力や道德的心情によって価値があるとされた行動をとろうとする傾向を意味する。道德的実践意欲は、道德的判断力や道德的心情を基盤とし道德的価値を実現しようとする意志の働きであり、道德的態度は、それらの裏付けられた具体的な道德的行為への身構えということができる。(下線は筆者)

上の下線に示した道徳性の諸様相について、育成すべき資質・能力を認知的、情意的、行動的側面としてとらえると、次の表1のようにまとめることができる。

表1 道徳性の諸様相についての認知的、情意的、行動的側面からの分類

道徳性の諸側面	道徳性の諸様相	資質・能力	評価の観点
道徳性の認知的側面	道徳的判断力	「何をなすべきか」、「なぜそうすべきか」など葛藤場面において善悪を判断する能力	道徳的諸価値についてどのようなことになっているか、また、道徳的な判断を下す必要がある場面で生徒がどのように思考し判断するかを把握する。
道徳性の情意的側面	道徳的心情	「どんな気持ちか」を感じ、「それを大事にした」、「実践したい」と思うなど道徳的諸価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情	道徳的に望ましい感じ方・考え方や行為に対して、あるいは、道徳的に望ましくない感じ方・考え方に対して、生徒がどのような感情を持っているか把握する。
道徳性の行動的側面	道徳的実践意欲と態度	「どのようにすべきか」など道徳的心情や道徳的判断力によって価値があるとされた行動をとろうとする傾向性	道徳的によりよく生きようとする意志の表れや行動の構えが、生徒にどれだけ芽生え、また定着しつつあるかを把握する。

## (2) 道徳性の評価の意義

中学校学習指導要領「『第3章特別の教科道徳』の第3指導計画の作成と内容の取扱いの4」によると、道徳科における評価の意義として「児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。」と示されている。

このことは、道徳性を、数値等によって、あるいは一つの姿をもって、安易に評価することは不適切だということを示している。宮澤章二(2010)は「行為の意味」(\*4)の中で、「『思い』は見えないが、『思いやり』は見える。『こころ』は見えないが、『こころづかい』は見える。」と言っている。つまり、「思いやり」や「こころづかい」は、子どもの行為や発言として現れるので見取ることができるが、道徳性にあたる「思い」や「こころ」は見取ることが困難である。

また、道徳科の評価については、「『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について(報告)【概要】」(\*5)で、次のように示されている。

- ・数値による評価ではなく、記述式であること。
- ・個々の内容項目ごとではなく、大きくりなまとまりを踏まえた評価を行うこと。
- ・個々の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行うこと。
- ・学習活動において児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視すること。
- ・道徳科の学習活動における児童生徒の具体的な取組状況を一定のまとまりの中で見取ること。
- ・調査書に記載せず、入学者選抜の合否判定に活用することのないようにする必要があること。

これらのことから、道徳科の評価について、次のようにまとめることができる。

○道徳性は、目に見えない内面的な資質であり、道徳性そのものを評価するのではない。

○道徳科の評価は、道徳科の授業における生徒の「学習状況」や「道徳性に係る成長の様子」の把握を指す。

## 2.2 道徳科の目標と評価内容と方法

### (1) 道徳科の目標とその特徴

中学校学習指導要領「第1章総則の第1の2の(2)」によると、道徳教育の目標は、旧学習指導要領の「各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳的実践力を育成する。」から、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、①道徳的諸価値についての理解を基に、②自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての(自己の)生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲及び態度を育てる。」ことに改訂された。( )は小学校学習指導要領、下線は筆者)

このことは、道徳教育の目標をより具体的にするとともに、道徳性を多面的に育むために、道徳性の認知的、情意的、行動的側面をバランスよく育む必要性を指摘している。

その理由として、文部科学省「中学校道徳 読み物資料集」の活用例に示されているねらいが「～の心情(態度)を育てる」と設定しているものが多く見られ、これまでの道徳授業が道徳性の情意的側面に焦点を多く当ててきたことに対する反省があると考えられる。そこで、道徳教育の目標を認知的側面から分析すると、次のような特徴が挙げられる。

下線①の道徳的諸価値の理解とは「人間としてのよりよい生き方についての理解」である。かつての子ども達は、家庭や社会の生活の中から「価値」について自然に学ぶことができた。しかし、現代は家庭や社会の教育力が低下し、「価値とは何か」「どうして大切にしなければならないのか」

など「価値」についての理解が不十分なまま成長している。道徳の時間に「価値の理解」を深めることが「道徳的価値の自覚」につながると考えられる。

また、下線②において、「自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習」とは、道徳的諸価値について、自分との関わりを含めて理解し、それに基づいて自己を内省し、多角的に考え、判断する学習である。つまり、「道徳的諸価値に基づいて内省し、多角的に考え、判断する能力」を育成する学習であると言える。

## (2) 道徳性の評価内容

前節において道徳科の評価内容は、授業における生徒の「学習状況」や「道徳性に係る成長の様子」の把握であると規定した。

道徳科の「学習状況」とは、(1)で示した道徳科の目標に示される学習活動における学習状況のことである。そこで道徳科の「学習状況」とその評価の観点について、中学校学習指導要領解説道徳編第5章第2節2(2)をもとにまとめると次の表2のようになる。

表2 道徳科の学習状況とその観点

道徳科の学習状況	評価の観点	観点例
道徳的価値についての理解	① 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳的価値を実現することの難しさや大切さを自分の事として考えているかどうか</li> <li>・読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考えているかどうか</li> <li>・現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直しているかどうか</li> </ul>
自己を見つめる		
物事を多面的・多角的に考える	② 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者と議論する中で、道徳的価値の理解をさらに深めているかどうか</li> <li>・道徳的価値に関わる問題に対して、判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から考えているかどうか</li> <li>・自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしているかどうか</li> <li>・複数の道徳的価値の対立が生じる場面を多面的・多角的に考えているかどうか</li> </ul>
人間としての(自己の)生き方についての考えを深める		

また、「道徳性に係る成長の様子」とは、「道徳性の成長」のことではない。「道徳性に係る」とは、「道徳性を育成することに関係する」や「道徳性につながっていく」等の意味があり、道徳科の目標に示された学習活動を積み上げた結果としての、学習状況の成長の様子のことである。

### (3) 道徳性の評価方法

中学校学習指導要領解説道徳編第5章第2節1(\*6)によると、「生徒自身による自己評価の機会や場を充実し、そうした姿勢を生徒自身に育むとともに、常に生徒の立場に立って生徒を受容し尊重する共感的かつ確かな生徒理解に基づく道徳性の評価を心掛ける必要がある」とし、自己評価の必要性を示している。

また、『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について(報告)(\*7)において、「他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかにして成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として記述式で行うこと」とし、評価方法として他人と比べない個人内評価が位置づけられた。道徳科の評価は、他の児童・生徒と比較して優劣を決めるような評価ではなく、生徒がいか成長したかを積極的に受け止め、励ます個人内評価が基本である。このことから、道徳性に係わる成長の様子の尺度は生徒の個人の中に存在していると考えられる。そのため、自分自身の学びに向き合い、自らの成長を実感し、さらによりよい生き方を求めて努力する意欲が生まれるように生徒の自己評価を工夫することが重要である。

生徒個々の経験や置かれている状況が異なるため、道徳的価値の理解についての学びの深まりや道徳性に係わる成長の様子は同じではない。教師は、その生徒自体の現状を基準とし、その生徒の伸びしろを見取ろうと生徒の学びに寄り添いながら、「その生徒についてのその生徒の評価」であるオリジナルの評価を行うことが大切である。そのため、道徳性の評価をつけるというよりも育み育てるという評価観が必要である。

## 2.3 道徳性の自己評価シートの開発

### (1) 道徳的価値の理解を確認する自己評価シートの開発と活用

年度当初に題材の要素を含まない、表3のような道徳的価値21項目(C16とC17を統合して一つの項目とした)について4段階の尺度で自己評価を行わせ、生徒の道徳的価値の理解の状況を把握する。

この自己評価シートを用いて学年や学級の生徒の道徳的価値の理解状況の傾向を把握することができ、理解の不十分な道徳的価値について重点的に指導することが可能となる。また、図1のような個人の道徳的価値の理解状況についてのレーダーチャートを用いることにより、学期や学年という大きな期間ごとに「振り返り」を行うことで、生徒自身に自己の成長を客観的に振り返らせ、「何が成長したか」を考えさせる機会とすることができる。

そこで、実際に表1の自己評価シートを用いて、平成30年6月に野坂中学校1学年121名の道徳的価値の理解の状況について質問紙調査を行った。自己評価の結果について因子分析法(バリマックス回転)を用いて分析を行い、「自己肯定感・有用感」「他者への関わり」「生命・自然の尊重」「社会性の尊重」の4つの因子を得た。(表4)この4つの因子を視点として生徒の道徳的価値にかかわる意識を分析した。図中の太枠は、因子負荷量絶対値0.33上を示しており、これを基準として因子名を解釈した。

表3 道徳的価値の自己評価シート

道徳アンケート（中学校生用）

（ ）年（ ）組（ ）番 氏名（ ）

これは、テストではありません。皆さんにお願いして、道徳に関する意識のことを聞いています。自分の事を振り返って、当てはまる番号を解答らんに記入してください。

4. よくできている 3. だいたいできている 2. あまりできていない 1. できていない

項目	質問	(年度初め) 解答	(年度末) 解答
A: 主として 自分自身に 関すること	1	自分で考え自分で決めたことに対して、責任ある行動をとっている。	
	2	規則正しい生活をしている。	
	3	自分のいいところを知り、自分の個性をもっと伸ばそうとしている。	
	4	自分で目標を立て、その目標に向かって努力している。	
	5	自分自身について考え、新しいことに挑戦しようとしている。	
B: 主として 人との関わり に関する こと	6	他の人々に対し思いやりの心を持ち、感謝の気持ちを表している。	
	7	時や場に応じて、礼儀正しい言葉遣いや態度をとることができている。	
	8	友だちを信頼し、互いに励まし合い高め合っている。	
	9	自分の考えや意見を相手に伝えようとしている。	
C: 主として 集団や社会 との関わり に関する こと	10	学校や社会のきまりを守っている。	
	11	正義を大切にし、誰に対しても公正、公平に接している。	
	12	人が困っているときは進んで助け、誰かの役に立とうとしている。	
	13	社会の発展のために、将来の生き方について考えている。	
	14	家族の一員としての自覚を持ち、家族のために役割を果たそうとしている。	
	15	集団の一員として、自分がすべきことをしている。	
	16	地域や日本の伝統や文化を大切にしている。(地域と日本の文化を統合)	
17	国際的視野に立って、日本人としての自覚をもち、世界の人々と関わっていききたいと思っている。		
D: 主として 生命や自然、 崇高なもの の関わり に関する こと	18	生命の尊さを考え、かけがえない生命を大切にしている。	
	19	公共物を壊したり、動物を傷つけたりすることはしていない。	
	20	美しいものや自然を大切にしようとしている。	
	21	自分の弱さやずるさを克服しようとしている。	

表5は年度初め（6月調査）の結果を示したものである。表5から、「自己肯定感・有用感」について、全設問の平均値が3.367であることから考えて、他の因子と比較して低い傾向にあることが分かった。とくに「5. 自分自身について考え、新しいことに挑戦しようとしている。」（真理の探究・創造）、「13. 社会の発展のために、将来の生き方について考えている。」（勤労）、「17. 国際的視野に立って、日本人としての自覚をもち、世界の人々と関わっていききたいと思っている。」（国際理解・国際貢献）は、それぞれ3.089, 2.903, 2.831と低く、課題があるといえる。

これらのことから、「自己肯定感・有用感」の育成に課題があることがわかった。



表4 道徳的価値の自己評価シートの因子分析表

アンケート設問項目	因子番号	第1因子：自己肯定感・有用感	第2因子：他者への関わり	第3因子：生命・自然の尊重	第4因子：社会性の尊重	二乗和	寄与率
9. 自分の考えや意見を相手に伝えようとしている。		0.677696	-0.1003	0.216071	0.109454	3.100946	14.8%
3. 自分のいいところを知り、自分の個性をもっと伸ばそうとしている。		0.620901	0.183844	0.058101	0.282366		
4. 自分で目標を立て、その目標に向かって努力している。		0.601488	0.112711	0.28817	0.180565		
5. 自分自身について考え、新しいことに挑戦しようとしている。		0.575426	0.369472	0.03002	0.065487		
13. 社会の発展のために、将来の生き方について考えている。		0.4888	0.295859	0.093163	0.080973		
21. 自分の弱さやずるさを克服しようとしている。		0.464527	0.417215	0.08413	0.164575		
12. 人が困っているときは進んで助け、誰かの役に立とうとしている。		0.461831	0.202707	0.320251	0.117472		
17. 国際的視野に立って、日本人としての自覚をもち、世界の人々と関わっていききたいと思っている。		0.421231	0.300383	0.255809	0.08537		
14. 家族の一員としての自覚を持ち、家族のために役割を果たそうとしている。		0.166658	0.735989	0.282926	0.114627	2.050102	9.8%
11. 正義を大切にし、誰に対しても公正、公平に接している。		0.231513	0.472106	0.353011	0.305242		
8. 友だちを信頼し、互いに励まし合い高め合っている。		0.363902	0.378526	0.229524	0.308206		
19. 公共物を壊したり、動物を傷つけたりすることはしていない。		0.11072	0.136996	0.762333	0.152736	2.033007	9.7%
18. 生命の尊さを考え、かけがえのない生命を大切にしている。		0.161462	0.193787	0.459694	0.255866		
20. 美しいものや自然を大切にしようとしている。		0.259031	0.107898	0.45024	0.189005		
7. 時や場に応じて、礼儀正しい言葉遣いや態度をとることができている。		0.084504	-0.0449	0.192612	0.610039	1.959287	9.3%
2. 規則正しい生活をしている。		0.180368	0.415312	0.07523	0.563261		
1. 自分で考え自分で決めたことに対して、責任ある行動をとっている。		0.387372	0.157117	0.126648	0.509337		
10. 学校や社会のきまりを守っている。		0.035643	0.232814	0.368705	0.463736		
15. 集団の一員として、自分がすべきことをしている。		0.349364	0.244494	0.310506	0.409289		
6. 他の人々に対し思いやりの心を持ち、感謝の気持ちを表している。		0.211217	0.309237	0.296114	0.331876		
16. 地域や日本の伝統や文化を大切にしている。		0.202303	0.281968	0.28961	0.092669		

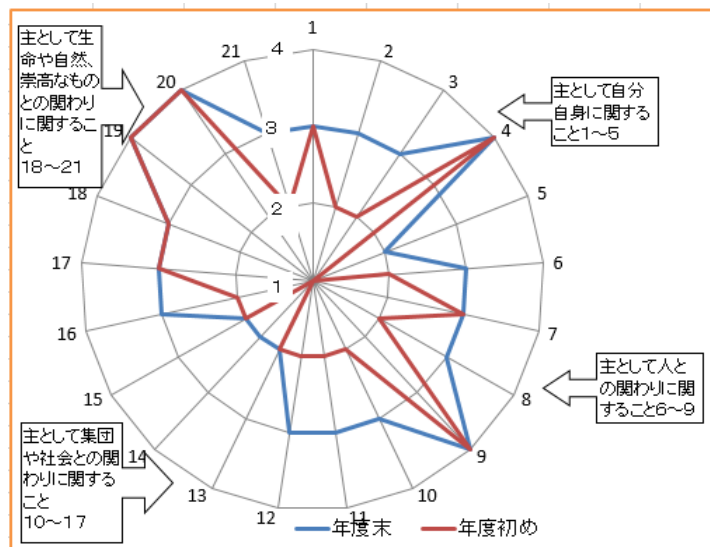


図1 振り返りに用いる自己評価シートのレーダーチャート (例)

表5 道徳的価値の事前調査の結果

因子名	アンケート設問項目	評定平均値	各因子の平均値
自己肯定感・有用感 第1因子…	9.自分の考えや意見を相手に伝えようとしている。	3.379	3.190
	3.自分のいいところを知り、自分の個性をもっと伸ばそうとしている。	3.290	
	4.自分で目標を立て、その目標に向かって努力している。	3.298	
	5.自分自身について考え、新しいことに挑戦しようとしている。	3.089	
	13.社会の発展のために、将来の生き方について考えている。	2.903	
	21.自分の弱さやずるさを克服しようとしている。	3.363	
	12.人が困っているときは進んで助け、誰かの役に立とうとしている。	3.363	
関わり 他者への 第2因子…	14.家族の一員としての自覚を持ち、家族のために役割を果たそうとしている。	3.282	3.341
	11.正義を大切にし、誰に対しても公正、公平に接している。	3.331	
	8.友だちを信頼し、互いに励まし合い高め合っている。	3.411	
尊重 生命・自然の 第3因子…	19.公共物を壊したり、動物を傷つけたりすることはしていない。	3.879	3.769
	18.生命の尊さを考え、かけがえのない生命を大切にしている。	3.685	
	20.美しいものや自然を大切にしようとしている。	3.742	
社会性の尊重 第4因子…	7.時や場に応じて、礼儀正しい言葉遣いや態度をとることができている。	3.556	3.430
	2.規則正しい生活をしている。	3.274	
	1.自分で考え自分で決めたことに対して、責任ある行動をとっている。	3.145	
	10.学校や社会のきまりを守っている。	3.540	
	15.集団の一員として、自分がすべきことをしている。	3.532	
	6.他の人々に対し思いやりの心を持ち、感謝の気持ちを表している。	3.532	
	16.地域や日本の伝統や文化を大切にしている。	3.275	3.274

## (2) 道徳性の評価における自尊感情測定尺度の活用

道徳的価値の自己評価シートの分析の結果、課題となった「自己肯定感・有用感」について、自尊感情測定尺度（東京都版を一部改変）を用いて分析を行うことで、より課題が明確になると考えられる。自尊感情や自己肯定感とは、心理学用語で self-esteem を訳した言葉で、自己に対する評価感情であり、自分自身を価値あるものとする気持ちである。『東京都教職員研修センター紀要第10号』（\*8）によれば、自尊感情を「自分のできることできないことなどすべての要素を包括した意味での『自分』を他者とのかわり合いを通してかけがえのない存在、価値ある存在としてとらえる気持ち」、また自己肯定感を「自分に対する評価を行う際に、自分のよさを肯定的に認める感情」と定義している。

そこで、表6の自尊感情質問紙を用いて、平成30年12月に野坂中学校1学年121名の自尊感情の状況について質問紙調査を行った。質問紙調査の結果について因子分析法（バリマックス回転）を用いて分析を行い、「自己評価・自己受容」「自己主張・自己決定」「関係の中での自己」の3つの因子を得た（表7）。この3つの因子を視点として生徒の道徳的価値にかかわる意識を分析した。図中の太枠は、因子負荷量絶対値0.33上を示しており、これを基準として因子を抽出し因子名については、『東京都教職員研修センター紀要第10号』（\*9）の解釈を用いた。

表6 自尊感情測定尺度

## 中学校 生徒質問紙

実施日 ( ) ( 1 ) 学年 ( ) 組 ( ) 番 氏名 ( )

番号	内容	あてはまる		あてはまらない	
		よく	やや	あまり	まったく
1	私は今の自分に満足している				
2	人の意見を素直に聞くことができる				
3	人と違っていても自分が正しいと思うことは主張できる				
4	私は自分のことが好きである				
5	私は人のために力を尽くしたい				
6	自分の中には様々な可能性がある				
7	私はほかの人の気持ちになることができる				
8	私は自分の判断や行動を信じていることができる				
9	私は自分という存在を大切に思える				
10	私には自分のことを理解してくれる人がある				
11	私は自分の長所も短所もよく分かっている				
12	私は今の自分は嫌いだ				
13	人に迷惑がかからないよう、いったん決めたことは責任を持って取り組む				
14	私には誰にも負けないもの(こと)がある				
15	自分には良いところがある				
16	自分のことを見守ってくれている周りの人々に感謝している				
17	私は自分のことは自分で決めたいと思う				
18	私には自分のことを必要としてくれている人がある				
19	私は自分の個性を大事にしたい				

表7 自尊感情の因子分析表

因子番号 アンケート設問項目	第1因子： 自己評価・ 自己受容	第2因子： 自己主張・ 自己決定	第3因子： 関係の中 での自己	二乗和	寄与率
4. 私は自分のことが好きである	0.883569	0.195781	0.194183	3.633619	19.1%
1. 私は今の自分に満足している	0.738661	0.280379	0.187143		
12. 私は今の自分は嫌いだ(逆転項目)	-0.67465	-0.13925	-0.11252		
9. 私は自分という存在を大切に思える	0.582751	0.378309	0.379798		
8. 私は自分の判断や行動を信じていることができる	0.541034	0.268909	0.369666		
11. 私は自分の長所も短所もよく分かっている	0.444755	0.380323	0.209195		
17. 私は自分のことは自分で決めたいと思う	0.218993	0.694629	0.105859	3.287884	17.30%
19. 私は自分の個性を大事にしたい	0.343946	0.687859	0.128451		
14. 私には誰にも負けないもの(こと)がある	0.223228	0.615783	0.161307		
15. 自分には良いところがある	0.492755	0.607246	0.157443		
16. 自分のことを見守ってくれている周りの人々に感謝している	-0.04909	0.531533	0.406034		
18. 私には自分のことを必要としてくれている人がある	0.204911	0.512347	0.330398		
3. 人と違っていても自分が正しいと思うことは主張できる	0.216332	0.431408	0.343242	2.60561	13.7%
5. 私は人のために力を尽くしたい	0.030343	0.125526	0.711082		
10. 私には自分のことを理解してくれる人がある	0.324895	0.289534	0.620613		
7. 私はほかの人の気持ちになることができる	0.274423	0.235822	0.510689		
2. 人の意見を素直に聞くことができる	0.273333	0.062387	0.488008		
6. 自分の中には様々な可能性がある	0.437487	0.283418	0.442539		
13. 人に迷惑がかからないよう、いったん決めたことは責任を持って取り組む	0.155035	0.342522	0.373641		

表 8 は質問紙調査の結果を示したものである。

表 8 自尊感情の質問紙調査の結果

因子名	アンケート設問項目	評定平均値	各因子の平均値
第1因子 自己評価・自己受容	4. 私は自分のことが好きである	2.967	2.944
	1. 私は今の自分に満足している	3.041	
	12. 私は今の自分は嫌いだ (逆転項目)	2.099	
	9. 私は自分という存在を大切に思える	3.339	
	8. 私は自分の判断や行動を信じていることができる	3.125	
	11. 私は自分の長所も短所もよく分かっている	3.091	
第2因子 自己決定	17. 私は自分のことは自分で決めたいと思う	3.545	3.405
	19. 私は自分の個性を大事にしたい	3.579	
	14. 私には誰にも負けないもの (こと) がある	3.231	
	15. 自分には良いところがある	3.256	
	16. 自分のことを見守ってくれている周りの人々に感謝している	3.653	
	18. 私には自分のことを必要としてくれている人がいる	3.347	
第3因子 自己関係	3. 人と違っていても自分が正しいと思うことは主張できる	3.223	3.336
	5. 私は人のために力を尽くしたい	3.413	
	10. 私には自分のことを理解してくれる人がいる	3.620	
	7. 私はほかの人の気持ちになることができる	3.140	
	2. 人の意見を素直に聞くことができる	3.397	
	6. 自分の中には様々な可能性がある	3.182	
	13. 人に迷惑がかからないよう、いったん決めたことは責任を持って取り組む	3.264	

表 8 において全アンケート項目の平均値が 3.238 であることから、第 1 因子「自己評価・自己受容」が低い傾向があることがわかる。『東京都教職員研修センター紀要第 9 号』(\*10)によれば、このタイプの傾向は次のように示されている。

- ・発達段階が進むにつれ、思春期・青年期に多く見られる傾向である。
- ・他者を理解し、相手との接点を見いだして関係を成立させる協調性を重んじている。
- ・自分の短所が気になり、他者と比較して自己を評価する傾向が強い。
- ・自分に自信がないため、自己を否定的に見る傾向が強い。
- ・人との関係などバランスが崩れるとわがままや依存性が表面化する可能性もある。

このことから、道徳授業における指導としては、自分の良さや短所も含め、個性を認識する場面や経験を多く設定し、ありのままの自分を受け入れられるように指導する必要があると考えられる。

### (3) 自己評価のためのルーブリックを用いた道徳ワークシートの活用

毎時間の道徳ワークシートの最後に道徳性の諸様相についての自己評価を評定尺度で行わせ、生徒個人の指導記録として残すことにより、「学習状況」や「道徳性に係わる成長の様子」を把握するための資料にする。その際に、毎時間共通の評価基準で自己評価を行わせるために、表 9 のようなルーブリックを作成し、参照させる。

表9 自己評価のためのルーブリック

要素	自己評価の項目	3	2	1
道徳的判断力	① 今日の道徳の大切なことが理解できて、自分の考えや判断に影響がありましたか？	今日の道徳の大切なことがよくわかり、他の状況でも正しく判断できるとおもう。	今日の道徳の大切なことや内容がよくわかった。	今日の道徳の大切なことや考え方によくわからないところがある。
道徳的心情	② 今日の道徳の大切さを感じ、心の感動がありましたか？	今日の道徳の内容に深く感動し、自分の生き方にも影響があったと思う。	今日の道徳の内容に何かは感じたが、自分の生き方には影響しないと思う。	今日の道徳の内容に感動するほどの心への響きはなかった。
道徳的実践意欲と態度	③ 今日の道徳で学んだことを踏まえ、自分によりよく生かしていこうと思いましたか？	今日の道徳で学んだことをこれからの自分の人生で進んで実践していこうと思った。	今日の道徳で学んだことをこれからの自分の人生で機会があれば行いたいと思った。	今日の道徳で学んだことをこれからの自分の人生で実践に移すことは難しいと思う。

表10に道徳ワークシートの基本形を示す。発問のらんには、授業における発問を示し、発問④でルーブリックを用いて自己評価させ、その結果をもとに授業で学んだ道徳的価値について、自分の考えを自由記述させる。

表10 道徳ワークシート

道徳ワークシート

(1)年( )組( )番 氏名( )

発問①

発問②

発問③

道徳授業の最後に評定尺度による自己評価を行う。自己評価は、ルーブリックを見ながら毎時間共通の基準で自己評価を行い、記録に残しておく。

発問④ 今日の授業を振り返って

① 今日の道徳の大切なことが理解できて、自分の考えや判断に影響がありましたか？	3	2	1
② 今日の道徳の大切さを感じ、心の感動はありましたか？	3	2	1
③ 今日の道徳で学んだことを踏まえ、自分によりよく生かしていこうと思いましたか？	3	2	1

今日の授業で(個性の伸長)について考え、感じたことを書きましょう。

自己評価の結果を含め、今日の授業で学んだ道徳的価値について、自分の考えを自由記述で整理する。

### 3. 道徳評価の授業実践

#### 3.1 道徳性の評価における自尊感情測定尺度を活用した授業実践

##### (1) 授業実践の内容

- ① 日時 平成31年1月
- ② 学年 第1学年(30名)
- ③ 主題名「カメは自分を知っていた」内容項目 A(3)個性の伸長 関連項目 向上心
- ④ ねらい 様々な角度から自分を知り、長所も短所も活かして伸ばそうとする意識を高める。
- ⑤ 資料名「カメは自分を知っていた」(出典 光村図書)
- ⑥ 主題設定の理由
- 主題観・価値観

新学習指導要領においては、道徳科の内容A「主として自分自身に関すること」3「向上心、個性

の伸長」の指導の観点「自己を見つめ自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追及すること」(中学校学習指導要領)平成29年告示 解説 特別の教科 道徳偏 P30, 31より抜粋)と示してある。

中学生の時期は特に他者と比較して自分自身の価値を決めつけてしまう傾向がある。そのため、自己肯定感も低い傾向にある。自己肯定感とは「自分自身をかけがえのない存在で価値づけ、いろいろな欠点をも含めて自分を好きになること」である。自己肯定感を高めるためには、「自分のよさだけでなく、短所も含めてまるごと自分を好きになる。」必要がある。そこで「ウサギとカメ」という誰もが知っている童話を通して人それぞれに個性があることを知り、自分が考えている短所も自分で受け止めて、時には長所として磨きをかけることでそれが輝く個性となることに気づかせたい。自分の良さや個性を活かしたり、伸ばしたりすることの大切さや、これからの充実した生き方を考えさせたい。

#### ○生徒観

本学級の生徒に12月に自尊感情測定尺度を用いてアンケートを行った。

表11 事前アンケート結果(12月実施調査より一部抜粋)

アンケート内容		あてはまる
①	「私は今の自分に満足している」	83%
②	「自分のことが好きである」	79%
③	「人のために力を尽くしたい」	93%
④	「他の人の気持ちになることができる」	84%

表11のアンケート結果から、①②の項目より「自分ことに満足している」生徒や、「自分のことを好きである」生徒が多いことが分かる。

また、③④の項目より「周りの人のために尽くしたい」ということは、集団の中で自分の力を発揮したいという生徒が多いのではないと思われる。本学級では、学校の行事(体育大会・集団宿泊研修・文化祭など)を通して、多くの仲間と協力してきた。また、1学期よりお互いの「よさ」を見つけることに特化した指導を継続してきた。

しかし、実際の学校生活では「自分の長所も短所も含めて、これも自分である」という自己肯定感は高くない。普段の授業においても、「自分の考えを伝える」ことが十分できない生徒が多いことに課題があるので、自分を知り、自分の長所や短所をこれからの生活にどう活かせばいいのかということを考えさせたい。

#### ○指導観

本授業では、「カメは自分を知っていた」(光村図書)という資料を読み、「自分の特性(短所・長所)」を知り、それを活かした里子やカメが目標を達成したことを捉えさせ、自分の「長所」を伸ばし、「短所」を受け入れることで、自分の本当のよさに気づかせ、自分のよさを活かしながら課題を

どのように克服するかを考えさせたい。

「ジョハリの窓」という心理学的な演習を行い、自分自身の考える「自分」と、他人が考える「自分」を比較し、自分自身のことをどれくらい分かっているのか考えさせたい。また、他人から見た自分の気づけなかった情報も加えることで、自分自身を多面的にとらえ、長所も短所も活かしてそれを伸ばそうとする意識を高めさせたい。

⑦ 準備物

ワークシート 模造紙（ジョハリの窓の説明） 事前に書いたメッセージカード  
 資料「カメは自分を知っていた。」 のり 里子と美麻の写真 ウサギとカメ 付箋

⑧ 指導過程

※2時間扱いで、事前にジョハリの窓（自分のよさ・他人から見たよさ）で使用するためのメッセージカードを事前に書かせておく。

1 時間目

時間	学習活動
1 (10分)	カードを配って、ピンクのシートに自分の良いところを3つ書く。
2 (20分)	班の友達の良いところを一人に一つ、できるだけ具体的に書く。 5人～6人分
3 (10分)	自分の書いたよさと、友達に書いたよさを分類してみる。(番号を書く)
4 (10分)	生徒は自分の書いたものを切って集めて担任に提出する。

2 時間目

段階	学習活動	発問と生徒の予想される反応	指導形態		指導上の留意点 ○支援 ★評価
			T 1	T 2	
導入	・自分の長所と短所をそれぞれの付箋(ブルーに自分の課題や短所など)に書く。	○自分の良いところと、自分が好きでないところを付箋に書いてみよう。	発問	板書	・自分の長所は書きやすいが、自分の短所は書きにくいことに気づかせる。
展開	「カメは自分を知っていた」を読む。(前半)		配布	配布 範読	
	・里子の特徴をつかむ。  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content;">                     里子の長所                      ・真面目に考えることができる。                      ・努力をする。                 </div>	○里子の長所と短所は何でしょう？  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content;">                     里子の短所                      ・記憶するのに時間がかかる。 ・なかなか覚えられない。                 </div>	発問	板書	・里子の短所を出させることで、次の発問の答えにつなげる。



<p>①里子はなぜ美麻に勝ってクラス代表に選ばれたのですか？</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>里子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・里子が自分自身の短所を知ってから努力して覚えたから。</li> <li>・里子が百人一首の意味を考えながら覚えて身についたから。</li> <li>・ゆっくりだけど、丁寧に覚えていったから。</li> <li>・里子が謙虚だったから努力したから。</li> <li>・里子は短所を強みに変えたから</li> </ul> </div> <p>○これは何の話に似ていますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウサギとカメ</li> </ul>		<p>発問 ①</p>	<p>板書</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の短所を理解したことで、自分を知り、クラス代表に選ばれたことを押さえる。</li> </ul>				
<p>「カメは自分を知っていた」を読む。(後半)</p>		<p>配布</p>	<p>配布 範読</p>					
<p>②◎「カメは自分のことを知っていた」とはどういうことですか？ (主発問)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆっくりしか歩けないという欠点があることを知っていたので、努力できた。</li> <li>・自分の短所を良くわかっていたので、努力をした。</li> </ul>	<p>発問 ②</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の短所や欠点を知って努力や改善を重ねて目標が達成できることに気づかせる。</li> </ul>				
<p>・自分の短所の付箋をジョハリの窓に貼り付ける</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>ジョハリの窓</b></p> </div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p>自分も友達も知っている自分 (開放の窓)</p> </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p>自分は気づいていないが友達は知っている自分 (盲点の窓)</p> </td> </tr> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p>自分は知っていて友達は知らない自分 (秘密の窓)</p> </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p>自分も気づいていない友達も気づいていない自分 (未知の窓)</p> </td> </tr> </table> </div> <p>・ジョハリの窓を作成してどんなことに気づいたか、考える。</p>	<p>自分も友達も知っている自分 (開放の窓)</p>	<p>自分は気づいていないが友達は知っている自分 (盲点の窓)</p>	<p>自分は知っていて友達は知らない自分 (秘密の窓)</p>	<p>自分も気づいていない友達も気づいていない自分 (未知の窓)</p>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>・自分が考えていなかった○ ○という自分の行動が良いと言ってもらえてうれしかった。</p> <p>・自分では全く良いと思っていなかったところを教えてもらった。</p> </div>	<p>説明</p>	<p>配布 板書</p>	<p>○できるだけ時間をかけずに分類させて貼らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジョハリの窓を使って、自分の知らなかった自分の良さに気づかせる。</li> <li>・自分自身の悪いところも見方によっては良い場合もあることに気づかせる。</li> </ul>
<p>自分も友達も知っている自分 (開放の窓)</p>	<p>自分は気づいていないが友達は知っている自分 (盲点の窓)</p>							
<p>自分は知っていて友達は知らない自分 (秘密の窓)</p>	<p>自分も気づいていない友達も気づいていない自分 (未知の窓)</p>							

まとめ	③自分のよさを活かして自分の課題や短所を解決するにはどうしたらよいでしょうか？	発問	板書	☆短所も含めて自分自身を知ること、よりよい生き方ができることに気づかせる。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分が短所だと思ってきたことも見方を考えれば長所になると、前向きに考える。</li> <li>・ 長所も短所も自分なのだという自覚をもって生活する。</li> <li>・ 私は、〇〇というよさは伸ばしていきたい。</li> <li>・ 自分の欠点も受け止めて、それも自分だと思って生活したい。</li> </ul>			

## (2) 自己評価のためのルーブリックを用いた道徳ワークシート

授業実践で使用したワークシートを表12に示す。

表12 道徳ワークシート

25	テーマ：( )	名前	組	番
----	---------	----	---	---

① 里子はなぜ美麻に勝ってクラス代表に選ばれたのですか？

---



---

② どんなことに気づきましたか？また、友達との共通点はありましたか？

---



---

③ 今後前向きな生き方をするためには、自分のことをどのように考えればよいと思いますか？

---



---

## 今日の授業を振り返って（自己評価）の基準

① 今日の道徳の大切なことが理解できて、自分の考えや判断に影響がありましたか？	3	2	1
② 今日の道徳の大切さを感じ、心の感動はありましたか？	3	2	1
③ 今日の道徳で学んだことを踏まえ、自分によりよく生かしていると思いましたか？	3	2	1
今日の授業で（個性の伸張）について考え、感じたりしたことを書きましょう。			

### 3.2 授業実践における自己評価シートの分析

図2に道徳的価値の自己評価についての学年平均値のレーダーチャートを示す。

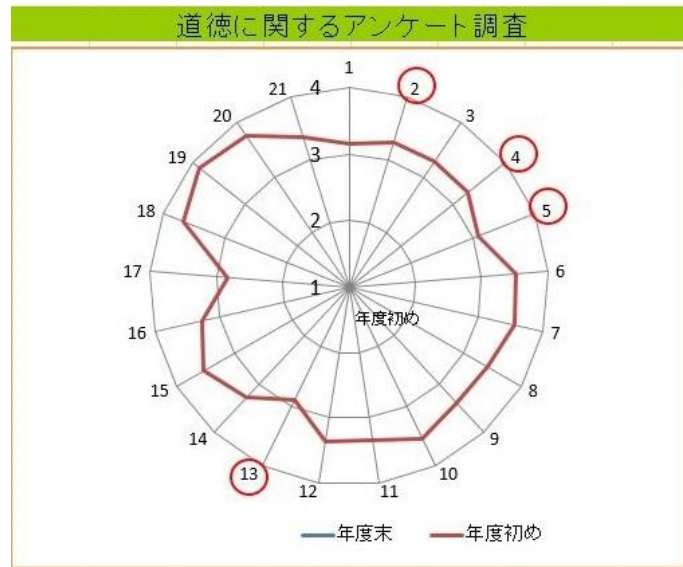


図2 道徳的価値の自己評価についてのレーダーチャート（学年平均値）

○は、第一因子「自己肯定感・有用感」の中でも全体の平均値を下回る項目である。これを見ると、[A2：節度・制約]、「A4：希望と勇気，努力と強い意志」，「A5：真理の探究，創造」，「C13：勤労，公共の精神」についての価値の理解が低いことがわかる。

年度当初における道徳的価値の理解の状況と授業実践での生徒の自己評価を比較して考察する。

図3に年度当初の生徒Aのレーダーチャートを示す。

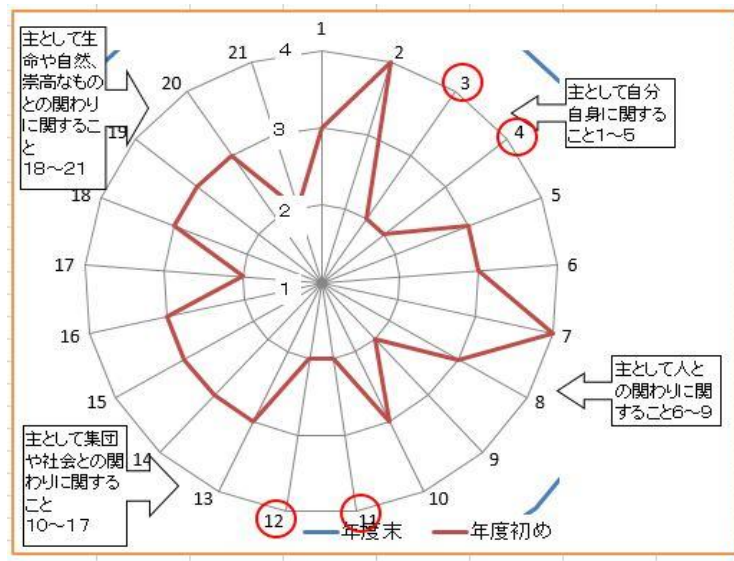


図3 年度当初の生徒Aのレーダーチャート

図3から「A3：個性の伸張，向上心」，「A4：希望と勇気，努力と強い意志」，「C11：規則の尊重」，「C12：公平・公正，社会正義」が特に低いことがわかる。この生徒Aについて，授業実践後の自己評価を図4に示す。

### 今日の授業を振り返って（自己評価）の基準

① 今日の道徳の大切なことが理解できて，自分の考えや判断に影響がありましたか？	3	2	1
② 今日の道徳の大切さを感じ，心の感動はありましたか？	3	2	1
③ 今日の道徳で学んだことを踏まえ，自分によりよく生かしていこうと思いましたか？	3	2	1
今日の授業で（個性の伸張）について考え，感じたりしたことを書きましょう。			
自分には知らない長所があったり，知っている長所があることがわかりました。			

図4 生徒Aの授業実践後の自己評価

図3と図4の生徒の自己評価については，「個性の伸張，向上心」については当初低い評価であったが，「個性の伸張」を扱った授業実践後は，自己評価や自由記述の評価でも，前向きな評価をしており，道徳性における生徒の成長の様子がうかがえる。

図5に生徒Bの年度当初の生徒Bのレーダーチャートを示す。

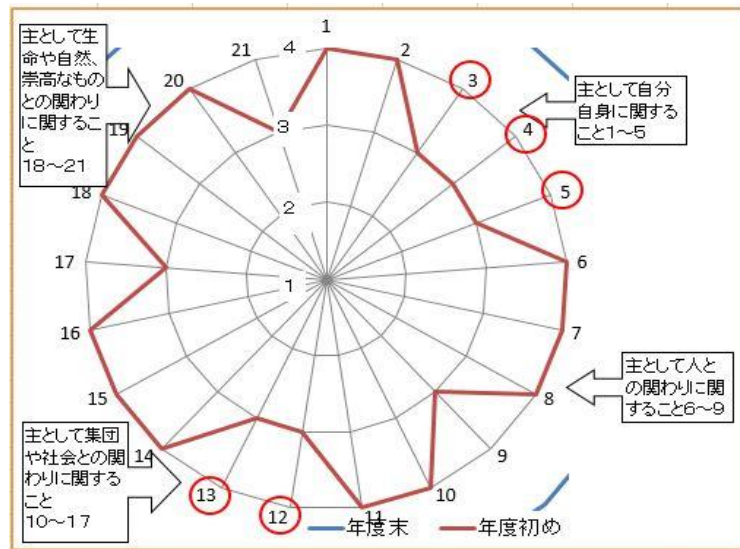


図5 年度当初の生徒Bのレーダーチャート

図5から [A 2 : 節度・制約], 「A 3 : 個性の伸張, 向上心」, 「A 4 : 希望と勇気, 努力と強い意志」, 「A 5 : 真理の探究, 創造」, 「C 1 2 : 公平・公正, 社会正義」, 「C 1 3 : 勤労, 公共の精神」が特に低いことがわかる。この生徒Bについて, 授業実践後の自己評価を図6に示す。

図5と図6の生徒の自己評価については, 「個性の伸張, 向上心」, 「真理の探究, 創造」については当初低い評価であったが, 「個性の伸張」を扱った授業実践後は, 自己評価では道徳的心情以外が高い評価であり, 自由記述の評価でも, 道徳的実践への意欲がうかがわれ, 道徳性における生徒の成長の様子を把握することができる。

### 今日の授業を振り返って（自己評価）の基準

④ 今日の道徳の大切なことが理解できて, 自分の考えや判断に影響がありましたか?	3	2	1
⑤ 今日の道徳の大切さを感じ, 心の感動はありましたか?	3	2	1
⑥ 今日の道徳で学んだことを踏まえ, 自分によりよく生かしていこうと思いましたか?	3	2	1
今日の授業で（個性の伸張）について考え, 感じたりしたことを書きましょう。			
自分の長所や短所を見つけることができた。これからは短所を長所にできるようにしたい。			

図6 生徒Bの授業実践後の自己評価

## 4. 道徳性の評価の考察

### 4.1 道徳的価値の自己評価シートの活用についての考察

道徳的価値の理解については、生徒の個人差も大きく、自己評価シートを活用して正しく生徒の実態を把握することで、学級全体の傾向や個人の課題が明確にできた。また、授業計画や指導内容の改善、効果的な道徳指導の改善に生かすことができた。

授業実践においては、「個性の伸張」への理解が十分でない生徒について、自己評価や自由記述の評価と組み合わせて道徳性の成長の様子を見取ることができた。

また、今後は一年間という大きくくりな評価として、年度末に自己評価シートでの評価を行わせリーダーチャートを本人に示すことで、自己の変容を考えさせる機会とさせ、その結果を教師の評価資料の一部とすることも可能である。

### 4.2 自尊感情測定尺度の活用についての考察

道徳的価値の自己評価シートの分析の結果、生徒の道徳的価値の一部は「自己肯定感・有用感」と密接に関係することが明らかになった。そこで、生徒の実態を把握する上で、自尊感情測定尺度による評価を行わせ、その結果を授業計画に生かすことができた。

本授業実践においては、自尊感情測定尺度の分析の結果、「自己評価・自己受容」が低い傾向にあることがわかり、道徳授業の改善策として、自分の良さだけでなく短所も含め個性を認識する場面として「ジョハリの窓」という活動を設定したことで、生徒の自己受容を高め、「個性の伸張」における道徳性を高めることにつなげることができた。

### 4.3 自己評価のためのルーブリックを用いた道徳ワークシートの活用についての考察

道徳的心情を生徒自身が自己評価することは、これまで「自己評価カード」「振り返りカード」などで一般に多く行われてきた。しかし、道徳性の諸様相を認知的側面、情意的側面、行動的側面の三側面から評価を行うことはなかった。今回、生徒が一つの道徳的価値について、道徳的判断力、道徳的心情、道徳的实践意欲と態度について自己評価を行い、その結果を見て、再度道徳的価値について考えることで、価値の意味を考え、その価値の意味を自分に振り返って考え、その価値を実践に移す段階まで考える機会とすることができた。

例えば、生徒Bは、自己評価によれば授業において道徳的心情はゆさぶられることはなかったが、学んだ道徳的価値を自分のこととして引き寄せ、自分の行動を変えるような実践への意欲にまで結びつけて考えることができたと考えられる。

また、自己評価の評定値を記録して集計することによって、個人の学習状況や道徳性の成長の様子として、教師の評価の補助資料とすることもできる。

## 5. 成果と課題

本研究の成果として、次のことが挙げられる。

- (1) 生徒の道德性の実態を調べる上で、道德的価値の自己評価シートは有効であり、個々の生徒の道德性の成長の様子を見取る上でも有効に活用できた。
- (2) 道德性の実態を調べる上で、自尊感情測定尺度は有効であり、授業計画を立てて指導改善を行う上でも、有効に活用できた。
- (3) 自己評価のためのルーブリックを用いた道德ワークシートを活用することで、生徒の学習状況や道德性の成長を見取る上で有効であった。この評価の記録を残すことで、大きくくりな評価を行う上でも有効に活用できる。

また、課題として次のことが挙げられる。

- (1) 開発した自己評価シートは、今後も継続していろいろな題材において実践と検証を行い、信頼性を高める必要がある。
- (2) 今回は評価の対象として自尊感情を取り上げたが、今後は、さらに問題解決能力や他者理解、自己理解、コミュニケーション能力なども評価できるように研究する必要がある。
- (3) 教師自身も自己評価の結果を一面的な結果重視の見方から、客観的で多面的な動機重視の分析的な見方へと評価観を変えていく必要がある。

### 引用文献

- (\*1) 文部科学省, 『『特別の教科 道德』の指導方法・評価等について(報告)』, 2016
- (\*2) 同上
- (\*3) 文部科学省, 「中学校学習指導要領解説特別の教科 道德編」, 2017
- (\*4) 宮澤章二, 「行為の意味 青年前期の君たちへ」, ごま書房新社, 2010
- (\*5) 文部科学省, 『『特別の教科 道德』の指導方法・評価等について(報告)【概要】』, 2016
- (\*6) 文部科学省, 「中学校学習指導要領解説特別の教科 道德編」, 2017
- (\*7) 文部科学省, 『『特別の教科 道德』の指導方法・評価等について(報告)』, 2016
- (\*8) 東京都教職員研修センター, 「東京都教職員研修センター紀要第10号」, 2010
- (\*9) 同上
- (\*10) 東京都教職員研修センター, 「東京都教職員研修センター紀要第9号」, 2009